

第 88 回 杜の都の環境をつくる審議会 議事概要

日 時：令和 3 年 1 月 2 8 日（月）13 時 30 分～15 時 30 分

会 場：仙台市役所本庁舎 2 階 第四委員会室

出席委員：中静会長、舟引副会長、板橋委員、内海委員、遠藤委員、小貫委員、小寫委員、
近藤委員、平塚委員、米倉委員、渡邊委員（計 11 名）

欠席委員：福岡委員、池邊委員（計 2 名）

事務局：建設局次長、百年の杜推進部長、百年の杜推進課長、同課全国都市緑化フェア推進担
当課長、同課主幹兼企画調整係長、同課緑化推進係長、同課緑地保全係長、公園課長、
同課公園整備担当課長、河川課長（計 10 名）

1. 開会

○事務局（岡田課長：百年の杜推進課）

—開会—

—議事録署名人の指名、傍聴ルールの説明—

・議事録署名人：中静会長、内海委員

2. 議事

(1) 審議事項

① 仙台市緑の基本計画の改定について～仙台市みどりの基本計画 2021-2030(中間案)について～

○事務局（水島主幹：百年の杜推進課主幹兼企画調整係長）

—資料 3、資料 1-1、資料 1-2、資料 2 について—

② 緑化重点地区について

○事務局（和泉係長：百年の杜推進課緑化推進係長）

—緑化重点地区について—

○舟引副会長

- ・ 前回の基本計画は、震災からの復興に向けて ECO-DRR や生態系を生かした防災・減災を重点として定められたが、間もなく復興の集中期間が終了する。今回は、震災復興の次の 10 年間に向けて、「挑戦を続ける新たな杜の都“The Greenest City SENDAI”」を掲げている。
- ・ 以下の 3 つのポイントで上手くまとめられるように議論してきた。1 つ目は、今までやってきたことを次の計画でもやっていくこと、2 つ目は、新しいテーマの重点と新規事業を明示すること、3 つ目は、これを基に現場が動いたり、市民に分かってもらえたりするよう分かりやすさを意識して作ることである。

○小貫委員

- ・ 10 日前に開催した検討部会の意見がまだ反映されていない。
- ・ 現行の基本計画の P145 にあるような施策方針図がこの計画にはない。現行から変わる箇所と内容が具体的に見えないことが不足しているところだと思う。
- ・ 各区の計画図が分かりづらい。もっとサイズが大きい方が良い。また、例えば街路樹に関しては、現在の整備状況と、今後 10 年間で行う整備内容がわかるような、具体的な計画図を作成するべきと思われる。

○事務局（岡田課長）

- ・ 施策方針図は作成中であり、最終的には計画に盛り込みたい。

- 小貫委員
 - ・委員への説明、了承を経てパブリックコメントへ至るものと認識しているが、そのスケジュールを教えてください。
- 事務局（岡田課長）
 - ・パブリックコメント前に委員に対して内容の説明は難しい。会長、副会長と相談しながら進めたい。
- 小貫委員
 - ・審議会です了承を得た中間案をもってパブリックコメントへ進むのが一般的だと思う。
- 中静会長
 - ・副会長と私が見て「これならパブリックコメントにかけて良い」というものができれば、各委員への説明を行わずにパブリックコメントへ進むことも考えられる。
- 舟引副会長
 - ・施策方針図は前回のみどりの基本計画にもあったため、必要な作業としてはこれをベースに新規事業を記載することである。内容が決まっているのであればそんなに難しい作業ではないと思う。
 - ・2月の早い段階に委員全員に何らかの方法で見てもらおうと良いと思う。
- 事務局（岡田課長）
 - ・パブリックコメント前に委員に確認してもらえよう進めていきたい。
- 板橋委員
 - ・概要版の P3 において、「みどりと共生するまち」の3行目は「育くみ」ではなく「育み」だと思われる。
 - ・P5 の成果指標において、「街路樹の再生を10年間で10路線」、「年間のイベント開催数を年10回以上」とあるが、具体的なイメージを持った数字なのか。
 - ・資料 1-2 の最初のページの右下に記載されている「グリーンインフラの推進」において、「新型コロナウイルス感染症による社会の変化にも対応したまちづくりに取り組んでいきます」とあるが、今後10年間で新型コロナは収束する可能性や、新たなウイルスが出現する可能性もふまえて、表現を検討する必要があると思われる。
- 事務局（岡田課長）
 - ・「街路樹の再生を10年間で10路線」は、街路樹マネジメントにおいて路線ごとのマネジメント計画を作成するが、実際に街路樹事業を進めていく中で決定した数値である。
- 小貫委員
 - ・区ごとの計画図に路線ごとの計画内容を具体的に記載することは可能か。
- 事務局（岡田課長）
 - ・出来る限り記載したい。
 - ・「仙台ならではののみどりを活用した年間のイベント回数」については、現在行っているものをベースにしながら具体的なものを想定した数字である。
 - ・「新型コロナウイルス感染症による社会の変化にも対応したまちづくり」は、新型コロナウイルス感染症によって生じた社会的な仕組みの変化、個人の価値観の変化に対応していくという意味合いで「新型コロナウイルス」という固有名称を使用した。新たな感染症の発生やそれに対応していく社会もあると思うが、今すぐに判断できる内容ではない。
- 中静会長
 - ・「新型コロナウイルス等パンデミックによる社会の変化にも対応した」とするなど、新型コロナウイルスに限定したものではないということが分かる表現にすれば良いと思われる。

○遠藤委員

- ・方針 3 と 4 の指標において目標値が「現在より向上」というのは、チャレンジングではなく、目標値をしっかりと設定することが重要だと思われる。
- ・方針 4 の 2 つ目の「コミュニティを育むみどりの市民活動団体の結成数」は、増えることが望ましいが、みどりとは異なる目的で結成されたグループが、みどりの活動をするところもある。メインの数値と分けてそういった団体も掲載し、市民・団体・企業を含めた全ての人がみどりを通じて豊かな気持ちと健康を楽しんでいる状態になると良い。

○事務局（岡田課長）

- ・「現在より向上」としたのは、望ましい数字を明確に示すことが出来なかったためである。

○事務局（水島主幹）

- ・みどりの活動とは異なる目的で結成されているがみどりの活動も行う団体の数を把握していないため、すぐに数値とすることができない。この 10 年間でそのような団体のみどりとの関わりを調べながら、途中段階で状況報告することは可能である。その上で、ある程度の数があった場合は、目標とすることができるとと思われる。

○遠藤委員

- ・みどりがメインテーマではない団体の数を求めているわけではない。10 年後には、メインでみどりの活動をしていない団体が増え、定期的のみどりを楽しんだり、管理したりしていると良いと思った。指標に含めるかどうかは今後の検討で良いと思う。
- ・目標値を「現在より向上」としているものについては、難しいからこそ考えるべきだと思う。

○中静会長

- ・計画があるのであれば、緑化重点地区における将来の緑視率や緑被率はある程度計算可能と考えられる。

○小貫委員

- ・街路樹については、路線の長さ、植栽間隔、樹冠の大きさを決めれば、計算が可能と考えられる。

○事務局（岡本次長）

- ・全市域の緑被率については、例えば山林における民間開発など行政が誘導できない部分がある。

○中静会長

- ・緑視率や緑被率は緑化重点地区における指標のため、それは関係しない。

○事務局（岡本次長）

- ・緑化重点地区であっても、民地の活用方法を行政だけで決めることはできない。
- ・街路樹については更新時期には一時的に緑視率が下がるということもある。
- ・将来的に、現在値よりも上げることを目標としたい。
- ・計画全体の指標における 3 と 4 については、P22 の市民評価やニーズに関するアンケート調査項目の「市街地の緑化や公園の整備、自然環境の保全等、緑美しい百年の杜づくり」において、令和元年度は 69.5%、平成 30 年度は 68.1%、平成 29 年度はランク外になっている。維持・向上を目標とするのもチャレンジングだと思う。

○舟引副会長

- ・目標値として設定が難しいというのは理解できなくはないが、指標は PDA サイクルを回すためのものであり、途中で上手くいかなかったら方法を変えることも考えられる。
- ・物理的に整備するものは目標値を数字で設定すべきであり、それが適切な行政の進め方だと思う。ただし、満足度や市民団体の結成数は、行政がコントロールできないため、定性

的な表現で良いと思う。

○事務局（岡田課長）

- ・行政が施策等でコントロール可能であり根拠があるものについては目標値を数字で設定し、それ以外は「現在より向上」など可能な限り上を目指した目標値を設定する。

○小貫委員

- ・計画全体の指標 4 において市民満足度が 34.7%と 5 割未満であるが、これは目標を 50%としても良いのではないかと思う。大胆に頑張る姿勢を示す目標設定があっても良いと思う。

○板橋委員

- ・小貫委員と同じ意見である。
- ・市民から計画への理解と協力を得て、“The Greenest City SENDAI”を目指す意識の共有が大事だと思う。市民意識の醸成のためにも具体的な数値目標があるべきだと思う。例えば 8 割を超える緑被率とするなど、希望も含めた数値目標があった方が良いと思う。

○中静会長

- ・目標は達成するものという前提がひと昔前はあったように思うが、小貫委員や板橋委員の意見のような形で指標を捉えることは重要なことだと思う。

○小貫委員

- ・第 2 章の各基本方針の最後に記載された「市民・市民活動団体・事業者の取り組み」が、概要版には記載がない。この項目では、市民の満足度や関わり方を変えていこうという市の希望を描くことができ、市民と行政と一緒に取り組む姿勢を概要版でも示すことで、市民のモチベーションを動かすことができる可能性がある。パブリックコメントにおいては概要版がベースの資料になることから、概要版に掲載すると良いと思う。

○小畠委員

- ・方針 1 の成果指標である、公園緑地等における雨水浸透量の目標値をどのように捉えたら良いかわからない。
- ・「郷土種」という言葉について、本編の中で説明が無い場合は用語集に記載した方が良いと思う。
- ・仙台らしさの大きな要因である街路樹の美しさは、何十年前から市職員と造園業界の尽力によるものであり、それをもっとアピールして良いと思う。

○事務局（岡田課長）

- ・公園緑地等における雨水浸透量の目標値については、今後 10 年間で公園の中に透水舗装等の浸透施設を設置したことによる雨水浸透量を計算した値である。

○板橋委員

- ・現在の浸透量について教えてほしい。

○事務局（水島主幹）

- ・現在の浸透量は把握していない。目標値は、今後 10 年間の浸透施設整備による浸透量と捉えてほしい。

○中静会長

- ・「10 年間で」と表現するより、令和 12 年度までに緑地全体で 1,500 m³の浸透能力を実現するというかわかるような表現ができると良いと思う。

○事務局（岡田課長）

- ・1,500 m³は、例えば雨庭や透水性舗装等も含めた様々な手法により確保する浸透能力である。
- ・令和 12 年度までに 1,500 m³の浸透能力を確保するという表現にしたい。
- ・郷土種については用語の解説を加える。

- ・仙台市の街路樹が造園業界と行政の協働によるものであることについては、「みどりを大切にすまち」に該当する。これまでの経緯がわかるように修正したい。

○平塚委員

- ・資料 1-1 の P47～48 に雨庭について記載があるが、私のイメージの雨庭は、普段は乾いた窪地で、雨が降るとその窪地に水が溜まり、その水が石や土の隙間からゆっくりと地下へ浸み渡っていく構造である。P48 の青葉山公園の雨水浸透施設の整備イメージに近い。市のゲリラ豪雨の緩和を植物に期待するのは荷が重く、植栽はどちらかと言えば修景であると認識している。
- ・P47 に「雨庭…浸水被害の軽減に努めます」とあるが、雨庭の話と流域治水の話に分けた方がわかりやすいと思う。流域治水の話については、P48 の「流域治水の考え方」の図と関係づけると良いと思う。

○米倉委員

- ・概要版 P6 に「プレーパークの拡充」とあるが、図では遊具で遊んでいる子どもに対して引き出し線が付いている。遊具のある公園をつくることや、既存の公園に多くの遊具を設置することと理解してしまう可能性がある。本編 P68 のように「子どもの遊び環境の充実」を併せて記載するなど誤解されないような表現とした方が良いと思う。
- ・「環境教育」が図に描かれているが、これは勉強のようであり、本来「環境教育」は体験型である。これも本編のように「子どものみどりの活動体験事業」を併せて記載するなど誤解されないようにする必要があると思う。

○小貫委員

- ・示したいことを示す効果的な図となっていなかったり、文章のみでもわかる内容であったりするのであれば、必ずしも図を入れる必要はないと思う。

○米倉委員

- ・方針 4 の指標に「身近な公園の役割が子どもを遊ばせる場所と回答する市民の割合」とあるが、もう少し踏み込んだ内容としてほしい。

○事務局（岡田課長）

- ・子どもが遊び、学ぶ環境に関するイラストについては改めて検討する。
- ・概要版については、本編から省いた説明を記載する。
- ・方針 4 の「身近な公園の役割が子どもを遊ばせる場所と回答する市民の割合」という指標は、仙台市の公園に関する調査でこの質問があり、経年変化を追えるため、設定した指標である。

○舟引副会長

- ・タイトルにイメージとある図は重点的な取組みのイメージを表したものであり、その他の写真やイラストなどの図は各プロジェクトの具体的な内容を説明するものであるが、重点的な取組みのイメージの図が説明的になっているため、混同が起きるのだと思われる。イメージの図を作っても意味がよく伝わらないのであれば、掲載しないことも考えた方が良いと思う。

○中静会長

- ・イラストがあると見た目が良くなるが、間違ったイメージを与えるのでは意味がないと思う。

○舟引副会長

- ・概要版において、写真にタイトルがあった方が分かりやすい。また、イラストは旗が立っていて説明のように見えてしまうため、イラストのみに修正した方が良いと思う。ビジュアル的で分かりやすいように整理をした方が良い。

○内海委員

- ・資料 1-1 の P46 に「庭木のたい肥の原料などへのリサイクルの取組み」の写真が載っているが、現在、仙台市では民間の庭木や街路樹の一部を回収してリサイクルに取り組んでいるため、そのことを説明すると仙台市の PR になると思う。

○小貫委員

- ・庭木がたい肥になるまでの過程について説明があるとわかりやすいと思う。

○事務局（岡田課長）

- ・「たい肥化」がわかるよう修正したい。

○小貫委員

- ・P115 の泉中央の緑化重点地区に関し、七北田公園と川の間空白がある。ここに「親水空間の利活用」という引き出し線はあるが、緑化重点地区に含まれないのか。

○事務局（岡田課長）

- ・この白い部分は河川の高水敷であり、七北田川のエリアである。七北田公園と七北田川の境界で線引きしている。

○中静会長

- ・事務局は委員からの意見受付の期間を設け、追加の意見のある委員は意見を出してほしい。期限に間に合わなければパブリックコメントで意見を出してほしい。

○事務局（岡田課長）

- ・追加意見がある場合は 2 月 3 日（水）までに提出してほしい。

○中静会長

- ・追加意見については舟引副会長と確認する。

その他

○事務局（千代谷課長：全国都市緑化フェア推進担当課長）

—全国都市緑化仙台フェアの開催決定の説明—

3. 閉会

○事務局（岡田課長）

—閉会—